

令和 2 年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和 2 年度白書では、冒頭のトピックスにおいて、「①「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」施行 10 年を迎えて」、「②森林組合の経営基盤強化を目指す森林組合法の改正」、「③森林環境譲与税を活用した取組状況」、「④先端技術を活用した機械開発・実証によるスマート林業等が進展」、「⑤令和 2 年 7 月豪雨による山地災害等への対応」、「⑥東日本大震災で被害を受けた海岸防災林の再生」を紹介・解説した。

特集 1 では、「森林を活かす持続的な林業経営」をテーマとし、林業経営体による収益性向上、人材育成、体制整備の取組を整理した上で、今後の林業経営の可能性について記述した。さらに特集 2 として、「新型コロナウイルス感染症による林業・木材産業への影響と対応」を記述した。

(2) 昨年 9 月以降、計 3 回の施策部会において御審議いただき、本年 4 月の林政審議会で諮問し、その結果を受け林政審議会長より答申が行われた。6 月 1 日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。(別添 1)

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

日本経済新聞では、特集 1 を中心に二酸化炭素排出量削減に向けた森林整備や、林業従事者の現状と収益性向上の重要性等に関する内容が紹介された。

また、共同通信の配信で、木材輸出額の増加、新型コロナウイ

ルス感染拡大の影響や木材利用が2050年カーボンニュートラル実現に寄与することが紹介され、同様の記事が毎日新聞や複数の地方紙において掲載された。

林業・木材産業の業界紙等においては、特集1を中心に取り上げており、林野庁が示した「これからの林業の収支構造試算」等が紹介された。(別添2)

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、解説記事の投稿等を行った。

また、林野庁企画課の担当者等が説明会において、現時点で計23回(うちオンライン19回)、約820名に白書の概要についての説明を行った。(別添3)

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、持続的な林業経営の必要性を知ることができて良かったという評価が多く見られた。また、SDGsとの関係や木材利用等の取組についての理解が深まったという評価があった。(別添4)

具体的な評価については以下のとおり。

- ・ 林業は新しい活動の成果が見られるまでや自然災害の復興に時間がかかるため、未来を見据えた持続的な林業経営が必要であると思った。
- ・ 収支計算によるコスト削減するべきところが図で表されていて、分かりやすかった。
- ・ 大規模な会社経営体の経常利益率が6%近いと判ったが、他産業との比較があるともっと良い。
- ・ 近畿出身のため震災の復興に関してはあまり注目していなかったが、森林・林業白書で現状を取り上げていることが印象的だった。

令和 2 年度森林・林業白書の
閣議決定・公表までの経緯

令和 2 年 9 月 18 日 第 1 回施策部会（書面開催）

- ・ 作成方針（案）の検討

11 月 27 日 第 2 回施策部会

- ・ 令和 2 年度森林及び林業の動向
（構成（案）、主要記述事項（案））

令和 3 年 3 月 10 日 第 3 回施策部会

- ・ 令和 2 年度森林及び林業の動向（原案）
- ・ 令和 3 年度森林及び林業施策（原案）

4 月 12 日 林政審議会

- ・ 令和 2 年度森林及び林業の動向（案）
- ・ 令和 3 年度森林及び林業施策（案）
（諮問・答申）

令和 3 年 6 月 1 日 閣議決定・国会提出・公表

令和2年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
日本経済新聞 (電子版)	6/1	<p>【脱炭素へ林業経営の支援強化 20年度林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年にCO₂の排出量を実質ゼロに減らす政府目標に向け、温暖化ガスの吸収源である森林の整備が重要と明記。林業経営の支援強化策として省力化につながる技術開発などを盛り込んだと説明。 ・伐採面積に比べて人工造林された面積が3～4割程度にとどまり、林業に適した場所でも再造林が進まないとの事例を提示。林業従事者の所得水準が低く、再造林の意欲がわからないことが一因だと指摘。 ・人材の定着も長期的な課題として挙げ、定着率を高めるためには林業の収益性向上が重要だと強調し、経営改善に向けた具体策を例示したと説明。
共同通信 ※同様の記事が、毎日新聞及び10社以上の地方紙(岩手日報、中日新聞、大阪日日新聞、宮崎日日新聞等)に掲載	6/1	<p>【木材輸出、過去20年で最高 林業白書、世界市場獲得を】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年の木材輸出額は、過去20年で最高の357億円となったことを紹介。林業事業者などの所得向上には「世界の市場の獲得が不可欠だ」と指摘し、輸出拡大には「日本産木材製品のブランド化や認知度向上」が重要と説明。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響については、住宅建設の受注減少などが製材や合板工場の減産、素材生産の縮小につながり、感染症は収束しておらず「世界の木材需給や流通の先行きは不透明だ」と説明。 ・日本の19年度のCO₂吸収量のうち約9割を森林が占め、木材利用も温室効果ガス排出実質ゼロの政府目標の実現に寄与すると明記。19年の木材自給率(37.8%)が9年連続の上昇となったと紹介。(一部記事には未掲載)
時事通信 iJAMP	6/1	<p>【森林資源と経営の持続性確保を＝新型コロナの影響「注視」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2050年カーボンニュートラル」を踏まえ、森林がCO₂吸収量の確保などで果たす役割の重要性に言及し、森林資源と経営の持続性確保に取り組む必要性を強調したと説明。 ・新型コロナウイルスの影響については、20年4月頃に製材品の出荷量が減少し、丸太価格も下落したことを紹介。一方、世界の木材需給の先行きが見通しにくくなっており、「各地域の状況を注視し、都道府県とも連携しながら必要な対応を行う」と説明。
西日本新聞	6/1	<p>【木材輸出357億円 過去20年で最高 20年、2年ぶり増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年の木材輸出額は、2年ぶりに増加し、過去20年で最高の357億円となったことを紹介。林業事業者などの所得向上には「世界の市場の獲得が不可欠だ」と指摘し、輸出拡大には「日本産木材製品のブランド化や認知度向上」が重要と説明。
北海道新聞	6/2	<p>【20年木材輸出最高357億円 林業白書 スギ・ヒノキ人気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年の木材輸出額は過去20年で最高の357億円となったことを紹介。要因に中国での需要増や、米住宅関連のスギ製材の伸び、韓国でのヒノキ人気の高まりなどを挙げたと説明。

日本農業新聞	6/2	<p>【20年度林業白書 持続経営の試算紹介 自動化機械で収支改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量を実質ゼロとする政府方針を踏まえ、CO₂の吸収源となる森林の整備や木材利用の拡大に向けた「持続的な林業経営」を特集。生産性向上や自動化機械、成長の早い樹木の導入などで収支を改善できるとする試算を紹介。 ・新型コロナウイルス禍の影響についても特集。住宅着工の遅れや受注減で製材工場の4割、合板工場の6割が減産したと報告。また学校給食や飲食店でのキノコ類の需要は減少したが、20年3月以降の国内卸売価格は前年並みで推移したと説明。 ・20年白書のポイントとして特集、トピックスを一覧表で掲載。 <p>【論説 森林・林業白書 役割発揮へ国民理解を】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の白書では森林の多面的機能の発揮に向け、林業経営の持続的な成長を図る道筋を紹介。林業経営体の収益性向上に向けて収入の拡大とコスト低減の両面に取り組むには、国と自治体の一層の支援が必要であり、森林の役割に対する国民の理解を広げる活動を強化すべきと指摘。 ・山村活性化については、多様な分野で森林空間を利用する動きと国の支援策を紹介。林業経営の持続的成長と山村振興を車の両輪と位置付け、政府全体での政策の構築・実行を求めると意見。
林経新聞	6/3	<p>【林業経営の可能性を提示 20年度森林・林業白書 脱炭素社会の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白書は、「森林を活かす持続的な林業経営」を取り上げ、林業経営体の取組を整理し、今後の林業経営の可能性を提示。また新型コロナウイルス感染症を取り上げ、木材需要動向の変化や林業・木材産業への影響を整理し、「新しい生活様式」に対応した事業展開などを紹介。
農機新聞	6/8	<p>【林野庁 森林を活かす持続的林業経営 令和2年度森林・林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度白書は、一昨年までの体裁に戻し、「トピックス」が冒頭になったと紹介。全トピックスのタイトルを記載の上、トピックス4のスマート林業及び6の東日本大震災については詳細を説明。また特集、通常章に関しても各ポイントを紹介。
林政ニュース	6/9	<p>【「新しい林業」で113万円の黒字が可能、20年度『白書』】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集では「森林を活かす持続的な林業経営」をテーマとし、今後の林業経営の可能性を提示、生産性の向上や造林コストの削減などに取り組んだ場合の採算性を初めて試算したことを紹介。「新しい林業」に転換すればha当たり113万円の収入が得られると説明。 ・林業経営の収益性を高める参考事例として宮崎県森林組合連合会の取組や兼業による収入源の多角化などを紹介。
農村ニュース	6/14	<p>【林業経営の黒字化へ 林業経営体数3.4万 1経営体当たり素材生産量は増加 ～令和2年度森林・林業白書～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業経営体は減少傾向だが、素材生産量は増加傾向で推移、また木材自給率も37.8%にまで上昇したと紹介。一方、林業単体ではほとんど利益が出ていない中、白書では特集として「森林を活かす持続的な林業経営」をテーマに現状や今後の林業経営の可能性を紹介、林業経営の黒字化の見通しを説明。

令和2年度森林・林業白書の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,000部印刷して、国会に提出(約120部)するとともに、関係府省(約110部)、都道府県(約280部)、都道府県立林業試験場(約50部)、国会図書館(25部)、都道府県立図書館(約110部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約330部)、農業高校(約70部)、大学・短期大学等(約60部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。8月にHTML版を掲載(平成30年度から語句検索機能を実装)。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった者に対し出版許可を行い、市販本計5,500部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会：5,500部

3. 説明会の開催

例年行っている農・食・林・水4白書の合同説明会は新型コロナウイルス感染拡大により中止されたが、大学、林業大学校等でWEB会議形式を中心に、現時点で計23回、約820名に対して、森林・林業白書の概要を説明(大学等の説明会では、自由記述のアンケート調査を実施)。

(1) 大学、林業大学校での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計21回、約800名が参加。新型コロナウイルス感染拡大により時期をずらした大学等があり、現在、4校と調整中。

北海道大学(7/15)、秋田県立大学(7/7)、山形大学(7/8)筑波大学(7/5)、宇都宮大学(7/15)東京大学(7/22)、東京農業大学(7/1)東京農工大学(7/26)、日本大学(7/14)、新潟大学(7/13)、静岡大学(7/1)三重大学(7/21)、京都大学(7/5)、京都府立大学(6/17)、近畿大学(6/30)、岡山大学(7/28)、高知大学(6/21)、九州大学(7/12)、宮崎大学(6/25)、鹿児島大学(7/29)、琉球大学(6/15)

(2) その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を2回開催。約20が参加。

- ・ 日本林政ジャーナリストの会(7/6)
- ・ 日本農業研究所(8/20)

4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・ 「林野-RINYA- 6月号」(林野庁広報室)
- ・ 「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
- ・ 「森林組合 7月号」(全国森林組合連合会)
- ・ 「山林 9月号」(大日本山林会)
- ・ 「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
- ・ 「農林水産省 公式ツイッター」(大臣官房広報室)
- ・ 「林野庁 公式フェイスブック」(林野庁広報室)

5. その他の情報発信

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書紹介の展示を行う予定(8/23~27)だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

(以上)

令和2年度森林・林業白書に対する主な評価

1. 全般に関するもの

- ・ 日本の林業は衰退しているようなイメージを持っていたが、いろいろな工夫がされていることを知ることができた。
- ・ 林業は新しい活動の成果が見られるまでや自然災害の復興に時間がかかるため、未来を見据えた持続的な林業経営が必要であると思った。
- ・ これからの林野庁の考え方や施策の方向性を予想するうえでたいへん参考になった。
- ・ SDGs との関わりもみられ、政策がそれぞれの項目に関係しているのかについて知ることができ、興味深かった。
- ・ 本文の文字の色は黒が多く、本文の中で理解や認識を広めたい部分があれば、下線を引くなどしてはどうか。

2. トピックスに関するもの

- ・ スマート林業の動向がとても興味深かった。
- ・ 東日本大震災や豪雨による土砂災害からの復興がさらに進んでいくといいと思った。
- ・ 東日本大震災からの復興には時間がかかるが、国を主体として民間、NPO、様々な企業が協力して植栽する取組は大きな影響力があると感じた。

3. 特集に関するもの

- ・ 大規模な会社経営体の経常利益率が6%近いと判ったが、他産業との比較があるともっと良い。
- ・ 収支計算によるコスト削減するべきところが図で表されていて、分かりやすかった。
- ・ 家具等に向けて選別した木材を用いることで、商品の価値を上げ高価格で販売するという話があったが、商品に使用されている木材の価値などをしっかりと伝えていき、それを人々に理解してもらい魅力を感じてもらうことが重要であると思った。
- ・ 林業の話を含体的にコストの削減、低コスト化、というのがキーワードであると思った。ただ、林業はニュース等であまり報道されない分野であり、低コスト化に成功したときにはニュースに流してほしい。
- ・ 林業従事者が安心して林業作業に従事し、その能力を十分に発揮する上

で、事業地や木材の販売先の確保が必要であるということがわかった。

- ・ 現状から将来像への転換の実現可能性がどの程度あるのかについてもう少し情報が得たかった。

4. 通常章に関するもの

- ・ 今の時代カーボンニュートラルや炭素循環型社会といったものが推進されていていっている中、木材はこれらを達成するための非常に重要なファクターであるので、これから整備や保全により一層の力を注いでいく必要があると感じた。
- ・ 林業産出額の約5割が特用林産物であるというのが印象に残っている。また、木材以外にも漆も国産化が進んでいるというのは好ましい。
- ・ 中山間地域では、森林をものとして利用するだけでなく、サービスとして利用するということがとても新鮮に感じられた。
- ・ 木造の建造物は低層ばかりで、大きなものを建設するのに木材では頼りないと思っていたが、CLTでなくても7階建てのビルを建設した事例があり、木材のさらなる可能性を感じた。
- ・ 近畿出身のため震災の復興に関してはあまり注目していなかったが、森林・林業白書で現状を取り上げていることが印象的だった。